

I 「そこで」

原語：「そういうわけですから」。先行する恵みを感謝しつつ＝クリスマスの恵み、主の十字架による罪の赦しの恵み、聖霊により新しい命が与えられ、キリストと命のつながりが与えられ、キリストの体、教会に結び合され、神の愛のうちに建てられるという素晴らしい恵みを受けているのですから。信仰生活は常に神の恵みへの応答。

II そこで「私は、主にあって言明し、おごそかに勧めます。もはや（これ以上、今後、二度と）、異邦人がむなしい（空虚、内容のない、無益、無価値な、本当のものでない、愚かな）心（原語：思考、理解力、分別、心構え、考え方、考え）で歩んでいるように歩んではなりません」：17。こう言われるという事は、私達は、この地上では、このように歩む誘惑、霊的な戦いがあるという事である。私達は、空しい心、考え方、分別ではなく、主と深く交わり、主に聞き、主にあって教えられ、主からいただく理解力、分別、心、心構え、考え方をもって歩めるように主に結び合され祈りたい。

III 主を信じる以前の私達の姿。

1. 「彼らは、その知性（原語：知能、理解、認識能力、思考力、考え方、心、意向、意図）において暗くなり（曇っている。「神を神としてあがめず、感謝もせず、かえってその思いはむなしくなり、その無知な心は暗くなったからです」ローマ1：21）、彼らのうちにある無知と、かたくなな（原語：元来硬い石の名。硬化、頑固、無情、悟りの鈍さ。神を知り認める事を積極的に拒む。「彼らが神を知ろうとしたがらない」ローマ1：28）心とのゆえに」：18。
→しかし、主を信じ救われた私達は今は、心の目を神により開けられ、また、主を信じた後の今も、「神を知る（知り続ける）ための知恵と啓示の御霊を与えてくださり、心の目がはっきり見えるように」祈る事が出来る（エペソ1：17、18）。
2. 「神のいのちから遠く離れています」：18。すべての命は、神が与えられるもの。神は命の与え主、命の造り主、命の源の方。私達は、主を信じる前は、神のいのちから遠く離れていた。神の憐みで、肉体的には、生きていた、いや、生かされていたが、神の生き生きした命、新しい命、永遠の命（素晴らしい神と親しく交われる命）からは、遠く離れていた。霊的には死んでいた。
→しかし、主を信じた今は、「あわれみ豊かな神は、私たちを愛して下さったその大きな愛のゆえに、罪過のゆえに死んでいた（神のいのちから遠く離れていた）この私たちをキリストとともに生かし、…キリスト・イエスにおいて、ともによみがえらされ」（エペソ2：4-6）、神のいのちに生きる者として下さった！感謝します。
3. 「道徳的に無感覚となった（痛みを感じなくなる、鈍感になる）彼らは、好色（放縦、放蕩）に身をゆだねて（任せる、引き渡す）、あらゆる不潔な行いをむさぼるようになっていきます」：19。主は、好色、放縦に身をゆだねる私達を救う為に→「キリストもあなたがたを愛して、私達のために、ご自身を神へのささげ物、また供え物とし、香ばしいかおりをおささげになりました」（5：2）。この「おささげになりました」と彼らは、好色に身を「ゆだね」は同じ原語。つまり、好色、罪に自分自身をゆだねる罪の奴隷である私達を救い出すために、主は神に、ご自身をささげ＝ゆだね、十字架で私達の身代わりに死なれた。感謝します。
5：25も同じ言葉→「キリストが教会を愛し、教会のためにご自身をささげられた（「ゆだね」と同じ原語）。主の御愛を感謝します。その愛に感動、感謝し、私達も好色、罪にではなく、主に自分自身をゆだね、ささげて歩めますように。

4. 「あらゆる不潔（汚れ、不道德、不品行）な行いをむさぼる（貪欲、欲深）ようになっています」：19。
不潔な行いは一回限りではなく、繰り返され、どんどん深みにはまって行く、ひどくなって行く。
むさぼり（その欲は、満足する事を知らず、止めようとせず）、その罪に縛られ、奴隷となって行く。
不潔な行いへの対処の御言葉→「毎日、ヨセフに言い寄ったが、彼は聞き入れず、彼女のそばに寝ることも、彼女といっしょにいることもしなかった。…ヨセフはその上着を彼女の手に残し、逃げて外へ出た」
（創世記39：10、12）。

「あなたの道を彼女（誘惑になるもの）から遠ざけ、その門（誘惑に会い、罪に陥ると分かっている所）に近づくな」（箴言5：8）。

「不品行を避けなさい」（Iコリント7：18）。

私達を心から愛しておられる「神のみこころは、あなたがたが聖くなることです。あなたがたが不品行（神の喜ばれないもの）を避け、各自わきまえて、自分のからだを、聖く、また尊く保ち」
（Iテサロニケ4：3、4）。

聖書は何と深い実際的な対処を示して下さる事か！不品行に「自分の力で立ち向かえ」ではなく
→「そばに、いっしょにいないように、逃げなさい、避けなさい、近づくな」、つまり、自分の弱さを自覚して近づかないようにしなさい。神に頼り、罪と距離を置く。そして素晴らしい神に近づく。
素晴らしい「神に近づきなさい。そうすれば神はあなたがたに近づいてくださいます。…手（罪を犯す手）を洗いきよめなさい。…心を清くしなさい」（ヤコブ4：8）。

誰も見ていない時、不品行や悪の誘惑がやって来ると、皆、弱い者である。それ故、信頼できる人に（見下げたり、他の人に言いふらさない。自分にも弱さがる事を認め、お互いの為に祈り合える人）、打ち明け、共に祈り合う（神に近づく）事は大きな力、支え。

「互いに罪を言い表わし、互いのために祈りなさい。祈りは働くと、大きな力があります」ヤコブ5：16。
「すべての人との平和を追い求め、また聖められることを追い求めなさい。聖くなければ、だれも主を見ることはできません」ヘブル12：14。

私達が、主の満ち満ちた身丈、御姿に成長して行くとは、主の愛と聖い性質に変えられ続け、似て行くと言う恵み。

「私たちはみな、顔のおおいを取りのけられて、鏡のように主の栄光を反映させながら、栄光から栄光へと、主と同じかたちに姿を変えられて行きます。これはまさに、御霊なる主の働きによるのです。」
（IIコリント 3:18）